

日理協 22 第 125

2022 年 6 月 27 日

スポーツ庁 長官
室 伏 広 治 殿

公益社団法人日本理学療法士協会
会 長 齊 藤 秀 之

2023 年度予算概算要求に向けての要望

日頃より本会および理学療法士の活動にご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

2023 年度予算概算要求につきまして、別添の通り要望を提出いたします。ご尽力を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

2023 年度予算概算要求に向けての要望事項

1. 障害児者が生涯にわたってスポーツを楽しめるための環境整備

障害児者が生涯にわたってスポーツを楽しめる基盤を整備する観点から、学校を含め身近な場所でスポーツを楽しめる場の整備や障害者スポーツの指導者の育成、学校・地域への配置・派遣を行う体制の強化が必要です。また障害者スポーツの普及を妨げる要因の調査分析やそれに基づく学校等での指導計画の整備も必要です。これらの実施に必要な予算の確保を要望します。

2. 障害者スポーツにおけるトップアスリートの発掘と育成

障害児者のトップアスリートを育成していくためには、障害児者が持つ可能性を見逃さず、アスリートとしての高い資質を見つけ出し育て上げるコーチ等の存在が重要です。また障害児者の運動能力や適応性の評価、障害の状態に応じたトレーニング強度の設定、身体のアフターケア等については、障害や医療の知識が必要となり、理学療法士のサポートが欠かせません。

障害者スポーツの競技レベルの向上やトップアスリート発掘・育成をさらに強化する観点から、競技団体や職能団体等が連携し人材の発掘・育成を支援する体制の整備を進めるとともに、その運用に係る費用の確保を要望します。

3. スポーツへの継続的なアクセスの確保に向けた環境整備

年齢や性別、障害、運動の得意不得意にかかわらず広く国民がスポーツに親しみもち、また怪我や障害によるスポーツからの離脱をできるだけ防ぎ、生涯にわたってスポーツにアクセスできる環境を整備する観点から、以下3点に係る費用の確保を要望します。

- ・部活動をはじめとする競技スポーツの現場に理学療法士を派遣することによる怪我や障害の予防強化
- ・スポーツによる怪我や障害からスポーツ再開のための医療機関とスポーツ環境の連携強化
- ・運動耐容能が低い人も気軽にスポーツに参加できる場の整備や指導者の育成

4. 障害に関する専門的知識を有する専門人材のスポーツ庁内への配置

スポーツ文化の普及浸透、健康長寿社会の実現、地域の活性化、国際相互理解の促進、ノーマライゼーションの普及浸透など、スポーツ政策が担う社会課題は重要かつ広範で、その政策の司令塔機能を担うスポーツ庁に対する国民の期待が高まっています。この重要かつ広範な社会課題に適切に対応できる政策司令塔機能を強化する観点から、スポーツ現場を熟知する者や医療や障害等の専門知識を有する者など、多様な人材が政策の立案段階から関わる体制作りが必要であり、スポーツ庁内の各部署に理学療法士を配置する予算の確保を要望します。